

## 2024 全道合研 第8分科会「音楽教育」報告

11月9日(土) 13:00~16:15 オンライン開催 参加者5名

3本のレポートを中心に、参加者の問題意識や実践を交流しながら音楽教育について討論した。参加者は、小学校特別支援学級担任2名、小学校1年生担任、特別支援学校高等部、中学校元教員(合唱団指揮者)という構成。

### \*レポートの概要

#### (1)「安心感のある教室をつくる」

釧路市立鳥取小学校 山口政世

情緒学級3年生男子4名との実践。朝の会で歌うことの意味を問い直したレポート。

転勤したばかりの小学校での子ども達との出会いから半年間の教室での営みを綴っている。それぞれの個性と実態、その子の内面にある願いや不安に寄り添い、朝の会で歌う音楽ではたらきかけている。

4月5月は、元気いっぱいの子どもたちが楽しい気分で1日を始められるようにウキウキする歌を、6月7月は信頼関係を築くのに時間がかかっていたKさんに向けて、リズムカルで言葉遊びが楽しい歌を、10月は、自信のなさや不安を心の中に秘めている4人のために、優しい気持ちで語りかける歌を選んだ。

4月からの録音を聴き、歌声の変化、教室の雰囲気からも子どもたちの成長を感じることができた。

教室を、「できる」「できない」で評価されない世界、「どんなに失敗しても、わからなくても大丈夫」と思える世界にするために、音楽の果たす役割は大きい。

- |                            |              |              |
|----------------------------|--------------|--------------|
| ♪「はずむよはずむよ」「ホップステップジャンプくん」 | 大井数雄 詩       | 丸山亜季 曲       |
| ♪「オレンジ売りの歌」                | 木村次郎 詩       | 丸山亜季 曲       |
| ♪「ほたるこい～じんじん」              | わらべうた        | 丸山亜季 曲       |
| ♪「いるか」                     | 谷川俊太郎 詩      | 林光 曲         |
| ♪「てんとう虫」                   | 「少年の魔法の角笛」より | 林光 訳 シューマン 曲 |

#### (2)「みんなちがってみんないい～和太鼓の取り組みから」

共同研究(札幌市立新栄小学校) 渡辺 健

昨年度の和太鼓の実践を通して、子どもたちに何を伝えたいか、なぜ民舞を続けてきたのかを見つめ直したレポート。

大学生時代に伝統芸能と出会ってその魅力を体感し、教師になってからはほぼ毎年、運動会や学習発表会の演目として取り組んできた。

昨年度は4年生の学習発表会で「三宅島太鼓」に取り組み、多くの子どもたちがその魅力のとりこになった。レポートでは2名の子どもの変容と成長を取り上げている。勉強や片付けが苦手な子が休み時間に遊びに行かないで自主練習を続けたり苦手なことに挑戦したりするようになる姿、何事にも自信のない子が地道な練習を重ねてみんなの前で発表するなど、徐々に自信をつけていく姿。それとともに、教師が自分の体を通して教材の魅力を伝えることの大切さ、子どもたちの前向きなエネルギーを引き出す力が伝統芸能にはあることが綴られている。

最後にアイヌの歌と踊りを「北海道に住む私たちが知っておくべき素晴らしい文化」として、日本の伝統芸能とともに伝えていきたいと結んでいる。

\*学習発表会総練習の録画「三宅島太鼓」

### (3) 「一人ひとりの音楽を大切にする」

共同研究 石窪 満

自身の中学校教師時代の実践をふり振り返りながら、合唱における「個」の表現について考察したレポート。

「一人ひとりの音楽を大切にする」ことを危うくしていることとして取り上げているのは、文化祭での合唱祭の取り組みと部活での合唱コンクール、そして「美しいハーモニー」を過度に重視すること。

前者は学級の集団作りや自治的な活動として取り組まれたが、受賞を目指して否が応でも団結せざるを得ない状況がつけられ、合唱曲をとおして共感し合ったり、自分の音楽を育てていったりということから遠ざかってしまう。

後者は、「完成度の高い」合唱を目標にしているので、技術的なことばかり重視され、「個」の表現が埋没しているように感じられる。

これらに対置して述べているのは「授業で大切にしたいこと」である。音楽の受け取り方は一人ひとりさまざまであり、表現の仕方も本来はさまざまである。自身が指揮者を務めている混声合唱団の「合唱を楽しむ」音楽を例に、「一人ひとりの音楽」を聴き合い、響き合わせて音楽を創っていくことこそが学校の音楽で大切にされるべきではないかと問題提起した。

「混声合唱団 音の虹」による録音

♪「自由の木」 パブロ・ネルーダ 原詩 大島博光 訳 林光 曲  
♪「つまさききらきら」 A.A.ミルン 詩 小田島雄志/若子 訳 林光 曲

3本のレポートと参加者の学校や実践の話を交えて討論を行った。

和太鼓も音楽もそれ自体の魅力で、十分子どもにはたらきかけることができること、子どもの実態に寄り添って教材を選ぶこと、子どもが安心して自由に表現できるように教師はどうすればよいのか、などを話し合った。

(文責 山口政世)